

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300591		
法人名	有限会社後藤企画		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	大分県由布市挾間町古野186番地1		
自己評価作成日	令和5年3月2日	評価結果市町村受理日	令和5年5月2日

※事業所の基本

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	令和5年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者の暮らしの意向や認知症の症状に寄り添えるような対応に心掛けている。また身体能力を一日でも長く維持する為に今できることを最大限楽しく行えるようにしている。コロナ禍ではあるが施設内に留まらず屋外でも四季を感じられるように季節の花や家庭菜園も作り新鮮な話題が良い刺激となっている。そして利用者職員と一緒に過ごす時間を大切にしている。また、感染予防を行いつつドライブに出かけて地域社会から孤立せぬように力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、6項目の理念を掲げ、特に「残存能力を活かした生活の提供」「尊厳のある生活の重視」を中心に、利用者を個人として尊重し、その人らしい生活を提供するとともに「やすらぎ」を感じる支援に努めています。高齢化・重度化する中で医療機関と連携しながら、認知症の進行予防・終末期対策等、職員で検討し介護計画をもとに個別支援に取り組んでいます。コロナ禍により面会や外出・地域交流等に制限がある中、家族との繋がりが途切れないよう、利用者の近況報告の送付や面会等を工夫し支援に繋がっています。事業所の庭には四季を感じられるようプランターに花を植えて、お茶を飲みながら、利用者同士の談笑が心地良い居場所となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一部の職員にはまだ共有・浸透しないようであり実践には繋がっていない。	毎朝の申し送り、毎月のミーティング等で、理念6項目を唱和し、その中の一つを取り上げ、理念や方針に沿った支援ができていますか確認や検討を重ねています。	利用者本位のケア実践に取り組むためには、一つひとつの場面で理念がどう活かされているか評価するとともに理念をもとに職員の個人目標を作成することで実践に繋げることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響でなかなか地域との交流が出来ない。これから徐々に緩和傾向にあるため少しずつ進めていく。	運営推進会議に地域代表が参加されており情報交換の場となっています。コロナ禍により地域行事の中止・外出自粛が続いていましたが、日常的に近隣住民との挨拶で少しずつ地域交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で実践は難しいが理解や支援は”やすらぎ便り”等で発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度サービス内容、利用者の現状、ヒヤリハット等を開示し向上に努めている。	地域代表・民生委員・行政・地域包括支援センター職員等4～5名のメンバーで2ヶ月毎に会議を開催しています。利用者の活動状況・ヒヤリハット事例等を議題にあげ意見交換を行い、得られた貴重な第三者の視点の意見をサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍で中々連絡等出来なかったが緩和に伴い徐々に取り組んでいく方針。	運営推進会議の参加や日常的な電話相談を通じて、行政担当者との連携を図っています。制度・運営上の疑問点が生じた場合は、市の担当窓口に出向き、ホームの実情への理解を得て必要な助言を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月に身体拘束廃止委員会を開催し勉強・講習を行っている。	2ヶ月毎に身体拘束廃止委員会による身体拘束・虐待防止の研修及び勉強会を開催しています。グレーゾーン・不適切ケアやスピーチロック等、職員の何気ない言動が利用者の行動制限に繋がらないよう注意喚起し、意識付けを図っています。	困難事例を起こす利用者は、常に目を離さないよう、業務の進め方を考え、必ず誰か見守れるような状態で支援することを期待します。
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で委員会を立ち上げ勉強・講習会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について学ぶ機会を持っているが、スタッフは自ら情報を得よう心がけている。活用は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、必ず契約書と重要事項説明書をお互い見ながら説明をし、不明な点を明確にしておくとともに、契約後も不具合があれば電話や面会時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会の際に意見、要望を伺いなるべく早く反映できるように努めている。	家族の面会や電話連絡・利用者の近況報告(やすらぎ便り)等で意見・要望が出されるようコミュニケーションを図り思いの把握に努めています。要望は連絡ノートで周知し、必要なことは会議で検討し改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで各職員からの意見等を聞き改善・反映している。	毎月のミーティングやカンファレンスの場で職員の意見や要望を聴取し、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設設備や業務内容、職員配置など不具合があった場合には、出来るだけ早く対応するようにしている。管理者も職員の業務や悩みの相談にのり働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で中々研修等行えないが、今後緩和にともない進めていく方針である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染拡大により機会は減ったが、近隣施設との交流に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、安心・安全な生活を送れるよう困難事項を早期に対応し、利用者様のニーズを十分に聞き信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用を始めるにあたり利用者様・ご家族の意見を十分に聞きニーズを引き出すよう努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の状況を把握し、何が必要か医療機関等の意見を参考にし、支援とサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の個性や生活歴を大切にしながら自分が出来ることは可能な限りご本人にして頂き出来ないことはサポート介助を行う。共に寄り添った暮らしを行える信頼関係作りを努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様が安心して生活できるようご家族に近況報告を行いご家族様の協力を得てご本人をサポートできる関係づくりに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の生活歴を傾聴し、ご本人様の希望に沿った外出支援や友人・知人の面会を行い馴染みの人や場所が途切れないような関係を続けられるよう支援に努力している。	コロナ禍でも、家族の協力を得て馴染みの人や場との繋がりが途切れないよう、関係継続の支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の間関係が円滑になるよう職員が見守り関わり合い支え合えるように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要であれば相談支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様のご希望や思いを傾聴し、意向に沿えるよう努力している。困難な場合はご家族様に支援をお願いして本人本位で検討を行っている。	日常生活の中で出来るだけ1対1の場面を多く設け、利用者一人ひとりの思いや要望を傾聴するようにしています。服が欲しい・買い物や家に帰りたい等を聞いた場合は、職員間で情報を共有し、家族の協力も含め支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様ひとりひとりの生活歴や今までの暮らし方を把握し、生活環境を整える。安心してその人らしい生活が送れるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様ひとりひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報を共有し、サービス記録に記入するなど行い、現状把握に努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者が一斉に集まることは少ないが、現状に応じた関係者に意見を求め介護計画に反映させている。	3ヶ月毎のモニタリングや個人記録・申し送り・担当職員による心身の変化や新たな発見(気づき)を共有し本人や家族の意見・情報をもとに、利用者本位の介護計画を作成しています。介護計画はケース記録に添付し、実践に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の個人記録シートやヒヤリハットなどで個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりに合ったサービスの提供を心掛けている。マニュアル等に束縛されずに柔軟性を持って個々のご希望に沿ったサービスの提供を心掛け努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事などは中止等が続いている。緩和に伴い行事なじみの店、場所など触れ合いその人らしく安全で豊かな暮らし、生きがいをもって頂くよう努力する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き受診、定期回診、夜間の急変時の対応をして頂き医療連携に取り組んでいる。	事業所のかかりつけ医に、定期的な往診や服薬指導をして頂き、利用者の健康状態の変化に早目に医師との連携を図り、適切な対応が取れるよう、場合によっては家族と医療機関の変更や治療の方針を話し合い、支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職も看護職も関係なく常にご利用者様の変動に気づくよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院時は安心して治療に専念できるよう家族に病院関係者と密に情報交換し、早期に退院できるよう常に病院関係者との関係づくりに努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人様、ご家族様を含めて重度化や終末期について説明し重篤時にはかかりつけ医、ご家族等に協議、方針を共有している。	入所時、家族に事業所が行える看取りに至るまでの支援について話し合いを持ち、方針を確認しています。急変時・終末期・看取りの際の対応策をかかりつけ医・家族と話し合い、理解を得て方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時に参加者で動画などを見ているが実践力は身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防署・消防団等の協力の元協力体制を築いている。	年二回以上、災害発生時に安全・迅速に避難場所まで誘導できるか発生場所を変えたり、少人数での避難訓練を全職員参加で実施しています。災害の種類や規模によって避難すべきか施設に留まるかの、判断やどのタイミングで何処に避難誘導するか等、反省会で検討しています。	災害発生時が夜間帯であったり、火事・地震の際に車いす使用や歩行困難な利用者が多い時の対応に、災害時のマニュアルや緊急連絡網の整備と地域との協力体制強化で万全な対策がなされています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話をさせて頂いているという精神で一人ひとりの人格を尊重しその方の性格・生活等を把握し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努力している。	事業所の理念に大切なものとして掲げ、利用者一人ひとりの尊厳を尊重し毎日の生活を、安心感や楽しみを感じて頂けるよう利用者の残存能力を活かした日々の暮らしを過ごせるよう、プライバシー遵守のもと支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様が気兼ねなく希望や思いを発言できるように働きかけ、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何が出来るかも大切だが、ご本人様が何をしたいかを優先し、その日をどのように過ごしたいか希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、本人様の好む服装や身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。必要なものはなくならないように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や片付けをすることは困難だが、食後のコーヒーなどの要望に応えることが食への楽しみへの支援になっている。	利用者の必要に応じて、軟らか食・ムース食等を提供しています。好みを把握し、希望があれば行事食やレクの時に、一緒に作ったりする事で食事が楽しい時間となるよう支援しています。利用者が植えた庭の野菜で、一品を作って喜んで頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	やわらか食やムース食のご利用者様には栄養バランス等に努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて一部介助や声かけを行っている。出来ない方には職員が介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下剤や食生活の見直し、一定のリズムで排泄が出来るよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、歩ける方は残存能力維持の為、ゆっくりとトイレ誘導を行い、立位可能な方には、オムツ使用からリハビリパンツに移行できるように、気持ち良い排泄の自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外の水分摂取や食事での食物繊維の摂取、日中のレク活動により予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のタイミングで入浴できるよう無理強いは行っていない、週2回を目安に行っている。	週に2回、午前中に3人の入浴支援をしています。拒否の時は利用者に理由があるとして無理強いせず、入浴を「温泉に入りましょう」と誘ったり息子さんの話をすると、拒否の時も入浴を受け入れてくれる事もあり、清潔保持のため柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や現在の状態を把握し安心して休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院や薬局と連携して職員ひとりひとりが利用者様の病状を理解し内服薬を把握するようにしている。誤薬防止のため職員の声を出してのダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクや外気浴・ドライブ・ボール投げ・塗り絵など個々のレベルに合った活動を行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	特定のご利用者様には、お金の所持や使う事の支援を行っている。	コロナ禍の今は、以前のように自由に利用者の行きつけの美容院や、近所の店に買い物に行くことは少なくなっていますが、利用者が外出による楽しい時間を周囲との交わりで、ストレス解消や残存能力維持のため、綺麗な花の咲いている場所に散歩をしたいと、希望があればできるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特定のご利用者様には、お金の所持や使う事の支援を行っている。盗られ妄想がある為。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご利用者からの希望があった場合は、その扱いは自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく風通し換気を良くし閉鎖的空間を避けるように解放している。又玄関先に季節ごとの野菜や花などを作っている。	一日の大半を過ごす共用空間を、レクや一人で自由に過ごせる居場所となるよう、椅子やソファの配置を利用者の生活スタイルに合わせ、随時配置換えをし、テーブルも一人専用のものとして、他の利用者との混乱を招かないよう工夫して支援に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花を好きな方も多く、四季折々の花を楽しんでもらえるように庭にテーブル・椅子を配置し、お茶を飲みながら楽しんでいる。お気に入りのソファをホールに置きすごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやテレビなどご希望のご利用者様には使っていたらいい。	入所時に、家族と話し合いを持ち利用者が家で使っていた馴染みの物を、自分が使いやすい好きな場所に配置して頂く事で、自分の部屋として居心地良く暮らして行けるよう、安全を重視した居室作りに配慮して支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の力を活かした安全な環境づくりは日付や時間の分かる利用者様には居室にもカレンダーや時計を設置している。		